

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調		胎土	備考
								①外面②内面			
69	Gトレンチ	第4層	縄文土器 浅鉢	口縁部				①褐色 ②黄褐色	0.5～3mmの砂粒を多く含む		

Tab.6 出土遺物観察表(鉄製品)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
70	Cトレンチ 第1遺構面Pl1		鉄釘	4.84	0.86	0.65	7.07	
71	Cトレンチ	第6層	鉄釘	4.74	1.5	1.17	20.06	
72	Cトレンチ	第6層	不明	3.9	1.1	0.87	7.18	

第2節 立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成12年2月7・14・21日・3月3日

調査面積 179.3 m²

調査結果 (Fig.17・18・34, PL.33・34)

給水管新設工事に伴い、立会調査を行った。地点名は試掘調査からの連番である。以下各地点の調査結果について報告する。

H地点の層序は現地表下約60cmまでが表土・造成土、以下60～70cmが黄褐色細砂で、同層上面で佐野焼の甕を使用した埋甕 (Fig. 34-2) を検出した。検出した平面形は43cm×50cm、深さは約20cmである。埋土は貝殻を含む造成土（黒褐色土）で、同一個体とみられる口縁部 (Fig. 34-1) や胴部片が出土した。内面に石灰質が付着することから便壺であった可能性がある。検出面、口縁部形態から19世紀後半の遺構と考えられる。

I地点の層序は現地表下30cmまでが造成土で、以下30～64cmが淡黄色 (2.5Y8/4) 礫、64～84cmが黒褐色 (10YR3/2) 細砂、84～100cmが黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂、100～120cmが灰黄褐色 (10YR4/2) 砂、床面が明黄褐色 (10YR7/6) 粗砂であった。黒褐色砂上面で近代とみられる石積を検出した。また、灰黄褐色砂から土師器片 (Fig. 34-3・4) が出土した。

J-1地点の層序は現地表下39cmまでが造成土で、以下39～113cmが暗黄褐色砂礫、110～123cmが明黄褐色砂礫、床面が淡黄色砂であった。床面から直径14cmのピットを検出した。埋土は黒褐色砂である。掘削は行っておらず遺物は出土していない。

J-2 地点の層序は現地地表下 57 cm までが表土・造成土で、以下 57～116 cm が暗褐色砂礫で部分的に 93～116 cm が明黄褐色砂礫、116～160 cm が淡黄色砂、160～186 cm が灰白色砂であった。壁面を精査した結果、淡黄色砂上面から掘り込まれた Pit1 (断面幅約 14 cm、深さ 70 cm) Pit2 (断面幅 40 cm 以上、深さ 70 cm) を検出した。遺物は出土しなかった。

K 地点の層序は現地地表下 146 cm までが表土・造成土、以下 146～190 cm が青黒色砂、190～220 cm が黄褐色砂、床面が暗オリーブ砂であった。青黒色砂から土師器竈形土器片 (Fig. 34-5・6)、須恵器片 (Fig. 34-7～9) が出土した。

L 地点は現地地表下約 60 cm まで掘削を行ったが、既設管が錯綜した状態ですべて造成土の範囲内であった。

上記以外の地点では、造成土や近世～近代の遺物包含層等から少量の土器片、土師器片、陶器片、磁器片が出土した。

出土遺物について報告する。1・2 は H 地点埋甕に使用された佐野焼 (瓦質土器) の甕。1 は口縁部。口縁部は直立し、外面を肥厚させて 1 条の沈線を施す。内面にくびれはなく内湾する。以上の特徴は上山佳彦氏による編年¹⁾では 7 ② A 型式に相当し、概ね 19 世紀に位置づけられる。2 は胴～底部。内外面にナデを施し、タタキによる凹みがある。また、内面に石灰質の付着がみられる。

3・4 は I 地点灰黄褐色砂出土の土師器。3 は甕口縁部で内外面にヨコナデを施す。4 は高坏の坏～脚部。摩滅で判然としないが、内外面にミガキを施す。

5～9 は K 地点青黒色砂出土土器。5～6 は土師器竈形土器の掛口～底部。付け庇で、接合面で剥離する。内外面にナデを施す。7～9 は須恵器。7 は坏蓋天井部。8 は甕胴部。外面に平行タタキ (1 条 1.5 mm 7 mm / 3 条) の後、帯状にカキメを施す。内面には同心円状の当て具痕が残る。9 は短頸壺の口縁～胴部。以上の土器は 7 の形状等から概ね 6 世紀前半に位置づけられる。

立会調査では、光構内で初となる近世～近代の埋甕を H 地点で検出した。J-1・2 地点で検出されたピットは古墳時代である可能性が高い。このほか、I・K 地点で古墳時代の遺物包含層を検出したことも注目される。後者については前節も参照されたい。

[注]

1) 上山佳彦「V まとめ 4 埋甕遺構について」(『東禅寺・黒山遺跡 (東大円・上徳田地区)』、山口県埋蔵文化財センター、2003 年)

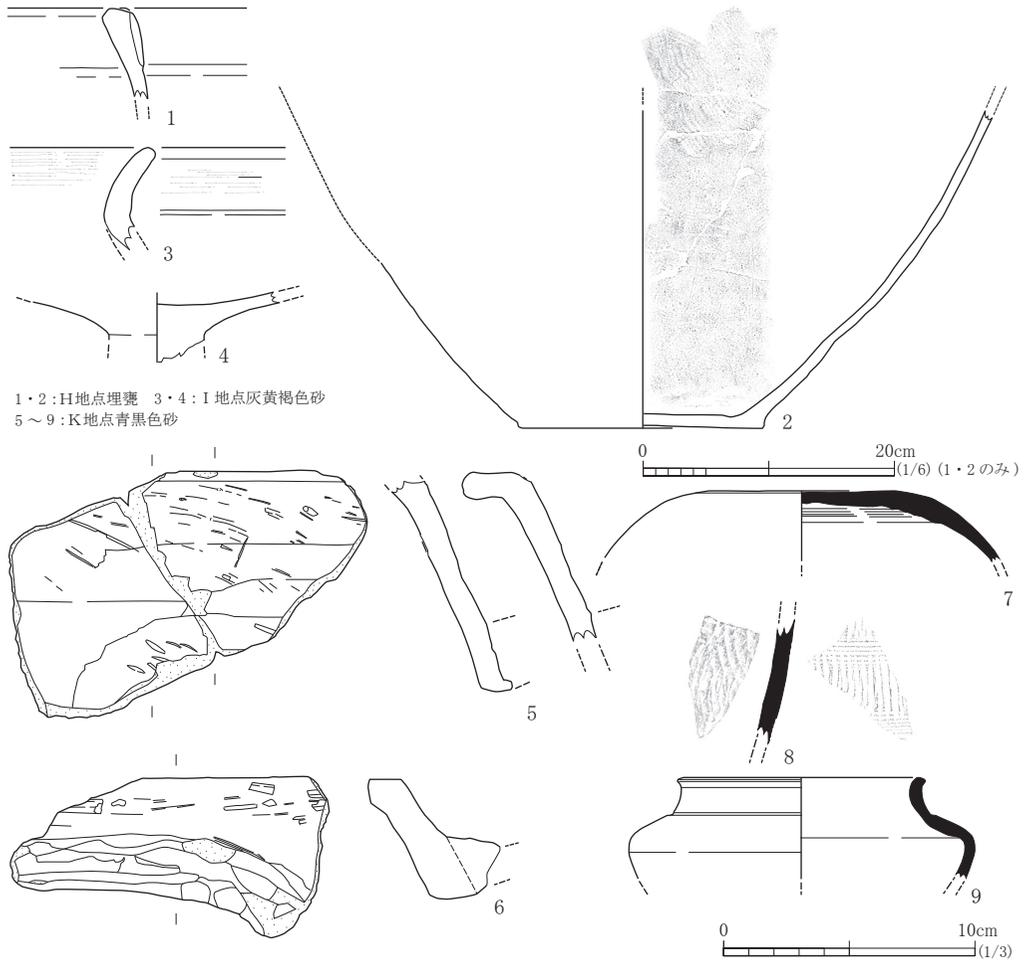


Fig.34 出土遺物実測図(土器)

Tab.7 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調		胎土	備考
								①外面	②内面		
1	H地点埋甕		瓦質土器 甕	口縁部				①②にぶい黄色	0.5～5mmの砂粒を少量含む	佐野焼	
2	H地点埋甕		瓦質土器 甕	胴～底部				①②灰色	0.5～5mmの砂粒を含む		
3	I地点	灰黄褐色砂	土師器 甕	口縁部				①にぶい黄色 ②にぶい黄褐色	0.5～3mmの砂粒を少量含む		
4	I地点	灰黄褐色砂	土師器 高坏	坏～脚部				①橙色 ②にぶい黄色	0.5mmの砂粒を少量含む		
5	K地点	青黒色砂	土師器 甕	掛口～底部				①②明赤褐色	0.5～6mmの砂粒を含む		
6	K地点	青黒色砂	土師器 甕	掛口～底部				①②明赤褐色	0.5～4mmの砂粒を含む		
7	K地点	青黒色砂	須恵器 坏蓋	天井部				①②灰色	0.5～3mmの砂粒を少量含む		
8	K地点	青黒色砂	須恵器 甕	胴部				①②灰黄色	0.5～1mmの砂粒を僅かに含む		
9	K地点	青黒色砂	須恵器 壺	口縁～胴部	(9.9)			①②灰色	0.5～1mmの砂粒を少量含む		